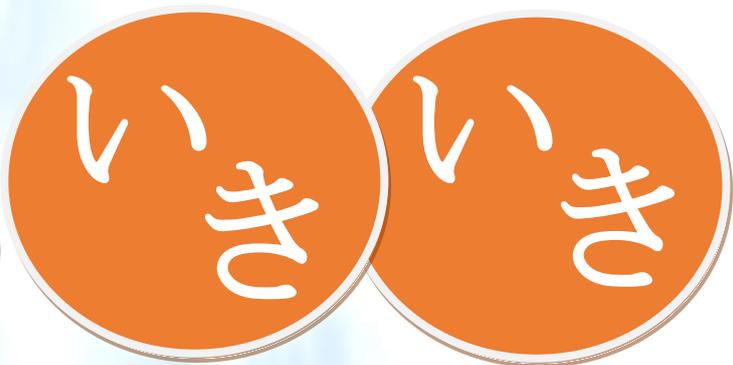


地域の支えあい活動や介護予防活動をご紹介します

見~つけた!

地域の活動



Vol.16

2017年11月発行

「たくさんの方が集まって話す場が大切」

空き店舗を活用した集いの場 “若鮎サロン”



今回の地域のいきいき活動は、川登地区を中心に活動する『若鮎クラブ』の取り組みを紹介します。

若鮎クラブは、昭和46年3月31日に設立した地域の単位老人クラブで、川登地区の住民を中心に、安並・古津賀・具同等32人の会員が参加し、道路等の清掃活動や週2回のグラウンドゴルフなどによる健康づくりに取り組んでいます。

これまでは、地区の喫茶店を集いの場として地域コミュニティを維持していましたが、店主の高齢化により閉店することとなったため、誰もが参加できる集いの場として、高知県社会福祉協議会による「高齢者生きがい・健康づくり支援事業」を活用し、空き店舗となった喫茶店で『若鮎サロン』を始めました。



取材に訪れた日は、元喫茶店の店主が作るコーヒーを飲みながら、近況報告をしたり、畑でとれる野菜の話をしたりと盛りあがっていました。8時から10時30分までのサロンですが、次第に参加者は増え、会話もさらに盛り上がり、外にまで笑い声が響いていました。

川登地区に限らず色々な地区からの参加を受け入れている若鮎クラブですが、代表者は、「たくさんの方が集まって話す場が大切だ。もっとたくさんの人に集ってもらえるような場にした。」と今後の意気込みを語られました。地域住民が楽しく過ごせる「集いの場」は、生きがい・健康づくりに加え、地域での見守りや支え合い活動の第一歩です。地区の高齢化に対する課題も話題となっている『若鮎サロン』の今後の活動が楽しみです。